

「英語の授業が楽しくてしょうがない」

宮城県
小牛田農林高校
佐々木 忠夫

1. はじめに

(1) 130 年を迎える農業高校？

小牛田農林高校は創立 130 周年をもう少しで迎える伝統校である。大崎地区（宮城県の北部）は農業が基幹産業であり、本校はその農業の担い手を輩出してきた。そのため近隣の市町の首長や議員の多くが本校卒業生である。しかし、農業科への進学希望者が減ってきたことで、学科改編を余儀なくされ、1997 年に総合学科 3 クラス、農業技術科 2 クラス体制になり、同時に男女共学となった。総合学科は地域の進学校の次に人気のある学科となっている。名前は農林高校だが、実際は農業を学んでいる生徒は半分もいないのである。

私は今年 3 月に退職し、現在再任用で勤務しており、本校勤務 10 年目である。この 10 年間を見る限り、総合学科は地域で人気のある学科で、それなりの学力の生徒が入学してくるのだが、その英語学力は年々落ちてきているのが実感である。また、農業技術科の生徒の志望動機は農業を学びたいというものは半数以下である。しかし、農業の技術を学ぶ中で農業の学習や農業クラブの活動に一生懸命取り組むようになっていく生徒がいるが、英語や数学に対する苦手意識は強く、生徒だけでなく、教員もそれらの学習にあきらめている様子がある。

昨年久しぶりに 1 学年の担当になった。1 年総合学科 3 クラス、1 年農業技術科土木コース 20 名を担当することになった。とくに、農業技術科は英語の学力は低く、基本的な単語の意味や発音すらできない生徒がほとんどである。以前は授業崩壊を起こすことさえあった。

今年はその生徒たちを持ちあがると思っていたが、今年も 1 年生ということになってしまった。そのため、昨年実施した授業を改善しながら今年は行ってきた。

(2) 寺島メソッド

私は初任のころから「寺島メソッド」を使って、授業を行ってきた。「寺島メソッド」とは元岐阜大学教授の寺島隆吉氏が考案した指導法である。その基本は英語学習の「水源地」を教えることである。「水源地」とは教える内容の一番根源となる原理を言う。英文法では語順である。英音法では「リズムの等時性」である。それらを教えるために英文法は「記号づけ」で、英音法は「リズム読み」で指導している。

2. 授業

私は 4 月の授業開きの時に、「英語と私」というタイトルで今までの受けてきた英語の授業や勉強方法、英語についてどのように思っているかを忌憚なく書かせることにしている。その中で「英語が苦手である」「英語が嫌いだ」と書いてくる生徒が殆どである。中に何人か「英語が好き」「英語が得意」と書いてくる生徒もいるが、多くが塾や英会話教室に早い時期から通っている生徒がほとんどである。

(1) 授業開き

1年生 4月、授業開きで英語の授業も目標を提示する。

<p>英語学習の目標</p> <p>I 見えない学力を鍛える！</p> <p>1. 集中力</p> <p>2. 計画力</p> <p>3. 持続力</p> <p>II 英語の力を伸ばしたい！</p> <p>1. 話せるようになりたい・・・言いたいことを単文で書け</p> <p>2. 聞けるようになりたい・・・リズム読みをせよ</p> <p>3. 書けるようになりたい・・・たくさん読め</p> <p>4. 読めるようになりたい・・・語順を意識化せよ（記号をつけよ）</p>

この「I 見えない学力を鍛える」は点数として現れる学力を支える。「集中力」「計画力」「持続力」をつけながら、英語の力を伸ばす授業を展開するというのが「寺島メソッド」の基本的な考え方である。

さらに「II 英語の力を伸ばしたい！」は、四技能の相互関係に対する仮説である。

昨年12月に涌谷高校の公開授業研究会に参加した。明海大学応用言語学研究科の高田智子教授が「基礎力の定着を目指して～英語の苦手な生徒の心に火をつける～」と題した講演をした。

四技能の関係性について質問をしてみた。しかし、最終的に帰ってきた回答は「現在その質問に答えるために資料を私は持ち合わせていません」というものだった。英語の力が十分にある大学教授ですら、四技能の関係性に無自覚なのだと私は思った。

これでは読む・書く・聞く・話す力はそれぞれ別個につけなければいけないことになる。しかし、「寺島メソッド」の考え方ではそれぞれの力が転移しながら延びていくことになる。そのための方法が上の「II 英語の力を伸ばしたい！」である。

現在のコミュニケーション重視の英語教育で英語学力が全体的に低下し、多くの生徒が劣等感に苦しんでいる。「寺島メソッド」はそのような生徒を救うことになる、私は考えている。

(2) 英文法の「水源地」を記号づけプリントで

「記号づけプリント」では英文の動詞に○、前置詞句に[]、助動詞に□、原形や準動詞に◇、さらに従属接続詞（関係詞を含む）に□をつけてあり、その節を[]で囲んでいる。その下には同じ記号があり、生徒はそこに、それぞれの語句の意味を書き込んでいながら、英文の意味を前から取っていくことになる。

生徒によると、中学校時代の読解は、()入りの和訳が渡され、その空欄を埋めたり、先生が和訳を言い、それを書き写したりすることが多いようだ。このような授業を受けてきて、英語の基本は「主語＋動詞」であると聞いてきてはいるが、どの単語が主語で、どの単語が動詞なのか判別できない生徒が実に多い。

しかし、この記号をつけることでそれが一目瞭然となる。それを続けることで、やがては一人で主語

や動詞が判別できるようになる。しかし、それを生徒自身に探させているのは、英語の不得意な生徒は時間がかかり、英文の意味がとれる楽しみがなかなか味わえない。それでは英語嫌いが増えるのも当然である。

このプリントの使い方は2通りある。一斉授業の中で使う場合（一斉方式）と、「マラソン方式」がある。

最初は「マラソン方式」で行う。1つのレッスンの本文を1枚2～3の英文で数枚の記号づけプリントを作った。最初の1枚を渡し、できあがったら、私が点検し、合格すれば次の1枚を与えるのである。完成したプリントを持って教卓の前に生徒が並び、それをスピーディーに点検し、次の1枚を渡すのが私の仕事である。これがとても苦しい仕事であるが、これをきちんとしないと、同じ記号に日本語の意味をきちんと書き込めない生徒がいたり、ヒントの欄にはほとんどすべての語句の意味があるのだが、それを見つけることができない生徒がいたりする。それが学習を妨げていることに気づかない。これができるようになると、後は一斉方式で行っても大丈夫である。

この「マラソン方式」で行うと、授業終了のベルが鳴っても、やめる生徒はほとんどいない。今やっているこの1枚を終わらせたいという気持ちが強いのだ。そのため、10分間の休み時間も私は生徒につきあうことになる。

（3）英音法の「水源地」をリズム読みプリントで

内容語に□、機能語に○をつける。ペンなどで机を叩きながら、叩いたところで□のついている単語を発音する。これは英語の「リズムの等時性」を体得するための方法である。ちなみに、あるALTが、これを見て幼稚園時代に同じような音読をしたと言っていた。

リズム読みは、英語の歌で始めて、教科書の本文もこれで読むようにしている。ただし、教科書はすべてではなく、時間の都合上一部にしている。

歌は1年で4曲だけであった。”You Needed Me”（Anne Murray）、“What a Feeling”（Irene Cara）、“I Want It That Way”（Backstreet Boys）、“That’s Christmas to Me”（Pentatonix）

今年度最初の曲はBette Midlerの”The Rose”を行ったが、その感想が授業の様子を見事に描いている。

「やはり『The Rose』の授業は印象にも記憶にも残っている。ペンでリズムをとりながらの音読方法ではじめてやったのが、『The Rose』だった。英語の歌は小中学校でも授業で何回かやった。授業では、さまざまなジャンルの歌を歌い、特に中学校では、先生が音楽好きということもあって、アメリカのポップミュージックなども含めた歌をたくさん聴き、歌った。そして、高校に入ってはじめて歌うことになったのが『The Rose』だった。今までの歌は明るく、楽しい曲調が多かった。しかし、『The Rose』はしっとりとした大人っぽい曲で、どちらかというと悲しい雰囲気を持つ曲でびっくりした。曲名を見て、情熱的な、そういうものだと思っていたからなおさらだった。

その曲が作られた背景と同名の映画について確認した後、練習が始まった。ペンでリズムをとって、はじめは文章を読むかのように歌い始めた。1つ1つの言葉に意識しつつ、“この言葉は発しない”“ここはつなげて”というアドバイスを受けながら発音に注意した。今までただ何となく楽しく歌っていたが、高校になるとその歌さえも立派な授業として成立することに驚いた。

それから練習を積み重ね、グループでの発表に臨んだ。グループの発表は「1人でも発音が間違ってい

たら全員に迷惑をかける、集中しよう」という気持ちで臨み、息を合わせ、何とかやり切った。ものすごいプレッシャーの中で大変だったが、『The Rose』の歌詞の意味、強弱のつけ方、発音の仕方など細かいところまで学ぶことができたのと同時に、みんなで1つのことに取り組み、達成する喜びを味わうことができた。」(K.Y.)

(4) 記号書き込み式フレーズ訳プリント

(2)の記号付けプリントで英語の語順が理解できたところで、生徒自ら記号を書き込む方式のプリントを導入した。

最初に「記号付けプリント」を行い、その後、こちらのプリントで行うと言う形にしている。二年次からは「記号付けプリント」を省略して、こちらのプリントだけでやりたいと思っている。

一度は「記号づけプリント」を行っている。どの単語に○が付き、どの単語が[]で囲まれているか目になっている。それでも、自分一人でその記号をつけることはすぐには難しいようだった。何度も繰り返すことでだんだんと記号がつけられるようになってきた。

前任校の佐沼高校では三年次でこれを行った。彼らは「大学入試にも役だった」とか「大学での英語はこれをしていなかったらついて行けなかったかも知れない」と言っている。また、今年の3年生もこの方式で1年やってきたが、センター試験で岩手大学合格者や石巻専修大学特待生合格(四年間学費免除)などの成果があった。

(4) 速写

一定時間内に与えられた英文(教科書本文だったり、英語の歌の歌詞だったりする。)を書き写すだけである。これはものを見る「眼の力」を育てるのだが、「見えない学力」を育てるための指導法でもある。rとv、aとu、bとdなど生徒はよく書き間違える。それはこの「眼の力」が足りないからである。さらにeye spunの狭い生徒は1回で1つの単語しか書き写すことができなかつたり、長い単語になると何度も見返さないと書き写せなかつたりする。このようなeye spunが狭い生徒はプリントにあるヒントを探せなかつたり、一行とばして文章を読んだりする傾向がある。

速写をすることで書き間違えもなくなり、1回見ただけで書き写せる単語の数も増えてくる。そして、集中して書き写すことができるようになる。

(5) 英訳式自己表現プリント

「文法の力は文法の授業や読解の授業で伸びるのではなく(英)作文の授業でこそ伸びるのである。」と寺島隆吉氏は「作文・自己表現」再考(1)で述べている。確かに、生徒に英語の自己表現をさせると、基本的語順すらできていない生徒が多い。文法の「水源地」である語順を定着させるには簡単な英文を多量に書かせたいという思いがあった。

1つのテーマに沿って3~5問程度の英問に答えるプリントを作成した。その日にあったことを自由に書きなさいと言ってもなかなか難しいことである。毎日の生活というのは意識しないと何をしたのか思い出せないことがよくある。日記などを書き慣れていない生徒にとってはとても苦痛なものである。そこで質問形式にすることで書くべきことが明確になる。また、生徒の書いた英文を添削するにもやりやすい。それで英問英答形式にした。週1回程度、授業の最後10分程度を使って行った。終わらないときは翌日までの宿題とした。

当初は英問だけだったが、「記号付けプリント」などで英語の語順の基本を十分理解していると思っ

ていたが、実際に生徒が書いた英文は語順がでたらめであった。

そこで、まず英問に対する答えをまず簡単な日本文を作る形式に変えた。答えの部分以外は日本語を与え、空欄に答えを日本語で書き込む形にした。生徒たちは答えを自由に考えるあまり、英語に直すには複雑な日本語になっている。そこで日本語を型にはめた方が英語に直しやすく、そのような日本語で考えたり、そのような日本語に直したりできるように、簡単な日本語の型を示し、そのような日本語が使えるようにできるのではないかと考えたからである。

しかし、それで英語の語順が十分に使えていない生徒が多かったので、さらに日本語を文節毎にわけ、前置詞句で書くべきところは[]をつけた。そして、主語と目的語には下線を引いた。生徒には述語(動詞)を○で囲むように指示した。そうすることで「記号づけプリント」で学んだ英語の基本語順が見えるようにした。

(6) 時相転換表

「時相転換表」をつかって12の時制・相を一気に覚える。さらに、疑問文、否定文への転換までを一気に訓練する。

時制、完了形や進行形の相は生徒が混同してしまっているものである。それは中学校で別々に学習してしまっているからである。そして、それぞれの疑問文・否定文の作り方も混同している。たとえば、完了形では have 動詞を助動詞として疑問文では主語の前に移動してくる。それに引きずられて一般動詞 have も主語の前に持って行って疑問文を作る生徒が多い。

「時相転換表」を使って訓練することでこれらを解消できると思ったのである。

(7) 英語に答える方法を知らない

教科書の本文の理解チェックは英問英答というのがよくある。しかし、生徒の答えを聞くと、単語だけで答えることが多い。きちんと「主語+動詞」をつけた形で答えることができない。生徒たちに聴いてみると、中学校時代、この英問英答ができなかった生徒がほとんどだった。

教科書にも英語で質問が出てくるが、教科書会社は生徒のそのような悩みを知っているのだろうか。もし、知っているのなら、それを解決する方法を考えているのだろうか。教科書に載っている質問を見る限り、そうとは思えない。

be 動詞は特殊な動詞であり、それを疑問文の典型として扱うことは生徒に余計な負担をかけることになると思う。まずは一般動詞を使った疑問文に対する答え方をしっかり教えるべきだと思う。それができるようになったら、be 動詞を含む質問文への答え方を教えるべきである。その方が応用幅が広がるはずだ。したがって、英問英答のプリントには be 動詞の質問文は現段階ではない。

このプリントの質問文の助動詞の部分には □ があり、その後ろの部分(本動詞)には ○ がある。そして、その間が主語となるわけである。この主語と動詞を使って答えの文を作るように指示する。ただし、主語は代名詞に変える。その主語の後に「助動詞+本動詞」に一旦はそのまま置き、助動詞が do / does / did のときは do の部分が消えると指示する。does は do に-es がついたものなので、-es は残り、後ろの本動詞につく。同様に did も do+ed と考えるように指導している。

「英語の質問に対する答え方のプリントをしたときは、□ ___ ○ を質問文に書くことで、よりわかりやすくなるということに改めて感じた。疑問文では「(助動詞) + 主語 + (動詞)」の形だけど、答えの文は「主語 + (助動詞) + (動詞) + 答えの中心部分」の形に変わるから、疑問文に

□ — □ をつけることで今までよりもスムーズに問題を解けるようになった。」(A.O.)

(8) 1,000 字以上の感想文・レポート

「外国語力はその人の母語力・国語力をこえることはできない」という仮説が寺島メソッドにはある。「寺島メソッド 英語アクティブ・ラーニング」では J.カミンズの「言語能力共有基底仮説」が紹介されており、「母語力・国語力と外国語の能力は見かけ上は別々の姿で立ち現れているが、その基底では大きな部分を共有している。」とある。そうすると、母語力・国語力がすぐれている人は英語の基礎基本をつかむことができれば、外国語の能力も伸びていく可能性があるということである。

現代の中高生の日本語能力は低下しているように私には思われる。それがすべての教科の学習能力の低下につながっているように思われる。英語学習も例外ではない。

だからこそ、母語力・国語力を大事にする必要があり、それを国語科だけに押し付けていいものではない。

各 Lesson が終わると、レポートを提出させる。その Lesson のテーマについてのレポートである。

	レポート	内容・活動
授業開き	「英語と私」	小学校からの英語学習の記録と英語に対する思い
Lesson 2	「自分の名前」	辞書で意味を調べる。親や親戚などに聞き取り
Lesson 3	「自分らしさ」	友だちや家族から、自分の性格や特徴を聞く
Lesson 4	「エネルギー問題」	資料を読む

また、期ごとに授業の感想文を書く場合は、その期間に授業で行ったことを提示する。そうすることで取り組んだ経験や学んだことを思い出しながら書くことができる。自分が何がわかり、何ができるようになったのかを確認するのである。

(9) 15分で「静」と「動」

1回の授業を大きく、3つに分けて、それぞれを「静」と「動」の学習活動に振り分けている。最初は音読や記号づけプリント「一斉方式」に「動」の活動を、次に視写や問題演習や記号づけプリント「マラソン方式」など「静」の活動をすることで、メリハリをつけている。特に「静」の活動では生徒が集中して授業に取り組んでいる様子がわかる。「持続力」もついてくるし、「学び方」を身につけてほしいと思っている。

3. 生徒の感想を見ながら

授業の感想を生徒に書いてもらった。それを見ながら生徒たちの変化を見てみたい。

まず、全体として中学校時代と英語の授業スタイルがあまりにも違うことで、最初は驚き戸惑っていた。しかし、慣れるにしたがって、中学校時代より英語がわかる、好きになったという感想がほとんどである。中には「英語の授業が楽しくてしょうがない」（これをこの報告のタイトルにした。）とまで書いた生徒がいる。

(1) 和訳が自分でできる

中学校時代は先生が和訳をしたものを書き写したり、和訳を渡されその空所に日本語を書き入れた

りすることで内容を理解するという授業が多いようで、自分で和訳をするにしても何の手立てもないまましなければいけなかったようだ。かろうじて、動詞にチェックを入れながら内容理解をしていたところもあった。したがって、英語の苦手な生徒が多い本校では和訳を自分一人のできる生徒はほとんどいない。寺島メソッドを使うことで、生徒は自分で和訳ができるという感覚をつかんできている。中学校時代のように、誰かが訳した訳のわからない英語の和訳だけを丸暗記する授業であれば、苦しいだけである。その点、記号づけプリントでの和訳は生徒にとってはわかりやすかったようだ。

(2) リズム読みの力にびっくり

英語の歌を歌うといわれて、しかもテストもあると知り、「本当に歌えるようになるのか心配だった」「そんなの無理」と思っていたが、リズム読みをすることで歌えるようになったと生徒たちは書いている。「この1年間で4曲も歌えるようになりうれしいです」と言っている。

また、リズム読みの効果について、ある生徒は「(ホームステイで)来てくれたアメリカ人の人に話しかけるとときには私の英語は1回でわかってくれましたが、中学生の弟が話すと通じないことがあり、弟は必死で発音を意識していましたが、なかなか伝わらないということがあり、リズムで読むことが大切なんだと実感しました。」と言っている。

さらには今年度の生徒は次のように書いている。

「まず1つ目は、英語を少しだけですが、聞きとれるようになりました。中学校時代は、私は英語をまったく聞き取れず、リスニングテストなどはあまり良い点を取ることができませんでした。しかし、コミュニケーション英語Ⅰの授業でリズム読みをしてから、少しずつ聞きとれるようになってきました。リズム読みの強弱や発音に気を付けることで、今まで聞き取ることができなかった単語などを少しだけですが聞きとれるようになったのです。ついこの間(1~2週間前くらい)、母が自分の部屋で外国人の方と電話で話をしていました。ちょうどその時、私は英語で分からないところを教えてもらおうと母の部屋を訪ねていたので、その会話を聞くことができました。どうせ難しい会話だろうなと思いつつも、自分で聞き取ってみようと思い、聞いてみると、2~3文ですが、聞き取ることができました。とても嬉しかったです。」(T.A.)

(3) 文法は英作文で伸びる?

「文法の力は文法の授業や読解の授業で伸びるのではなく(英)作文の授業でこそ伸びるのである。」と寺島隆吉氏は「作文・自己表現」再考(1)で述べている。

ある生徒は「『主語+動詞』という形は英語の基本ですが、中学校の時には理解できていないことでした。しかし、高校で自分の出来事をテーマにして少しずつ練習を積み重ねていくことにより、この形が自然とできるようになってきました。」と言っている。これははじめてからまだ日が浅い実践であるため、生徒によってはばらつきがあるが、生徒の書く英文の間違いは時制の間違いだったり、冠詞や所有格や前置詞の間違いだったり、文意を大筋で伝えることができる英文ばかりである。

一方でその間違いはプリントの作り方でその間違いを誘発している部分もある。プリントは今後さらに改善していく必要がある。

(4) 英語が好き?

この1年間で生徒は今までできなかったことができるようになったと感じているようだ。和訳ができる。英語らしく読める。英語の歌が歌える。英文が書ける。それによって中学校では苦手意識が強く、

場合によっては英語を勉強する意欲さえ失っていた生徒が、少しずつ英語が好きになり、これからも勉強していこうという意欲が出てきているようだ。

四技能の相互関係性を考えて、授業を作ってきたが、生徒が中学校時代から苦労してきたのは意味をとることである。意味のわからないものを丸暗記するほど苦しいことはない。そうすると、まずは意味がわかるようにすること、しかも、自分の力でわかるようにすることが土台であるだろう。したがって、日本人の英語学習では「読む」ことが土台になって、「聞く」「書く」「話す」を伸ばしていくべきだ。次の生徒の感想はその相互関係のよい例ではないだろうか。

「そして2つ目は自分の意志を英語で伝える（話す）ことが少しだけできるようになりました。

私の母は日常生活でたまに英語を使うのですが、私も何か言われたときは英語で返答しよう床尾ころ掛けています。しかし、中学校の頃まではまったく英語で返答ができず、日本語で返すような形になっていました。後から返答の仕方を学ぼうと思っても、どう勉強し、どのようなことを行えばよいのかわからなかったのが、全然進歩がありませんでした。しかし、英語の授業をするにあたって、まず言われた「話せるようになるには、まず、言いたいことを単文で書くことが大切」ということから自分の言いたいこと単文で書けるように練習しました。その成果もあってか、この前はじめて母に自分の言いたいことを伝えることができました。」(T.A.)

もともと、人間は学ぶことが好きなのである。しかし、今の学校は学ぶ意欲を奪うような学習を強いていると私は思う。特に英語はコミュニケーション重視になってからは、暗記を強いる授業中心となっている。「わかる」「できる」という感覚は生徒にはあまりないのではないだろうか。その一例が和訳を渡して、重要文と言われるものを暗記させる授業である。

もう一度学ぶことが好きな授業を作る必要がある。外国語学習は終わりが無い、一生学び続けなければならない。であれば、「好きだからこそ続けられる」学習にするべきである。

資料①

Part 1

Mihye Seoul / South Korea

- (1) I read fashion magazines every month.
- (2) I often find nice clothes [on the Internet].
- (3) My friends and I talk [about cool fashions] [after school].
- (4) We are interested [in popular clothes [in Japan]] now.

ヒント

Mihye 「ミヘ」、Seoul 「ソウル」、South Korea 「韓国」

- (1) read 「読む」、fashion 「ファッション」、magazine 「雑誌」、every month 「毎月」
- (2) often 「しばしば、よく」、find 「見つける」、nice 「すてきな」、clothes 「服」、
- (3) talk 「話す、おしゃべりをする」、cool 「すてきな、かっこいい」、
- (4) we 「私たち(は)」、are 「～である」、interested 「関心があつて」、popular 「人気のある」、

問題 1 上の語句の意味を下の同じ記号の部分に穴埋めしなさい。

- (1) _____ (は) _____ (を) _____。
- (2) _____ (は) _____ _____ (を) [～の上で_____]。
- (3) _____ (は) そして _____ (は) [～について_____] [～の後_____]。
- (4) _____ (は) [～の中_____ [～の中_____]] _____。



問題 2 上の穴埋めした日本語を普通の日本語にしなさい。

- (1) _____
- (2) _____
- (3) _____
- (4) _____

資料②

The Rose

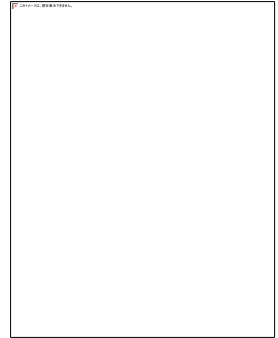
by Bette Midler

□ □ □ ○○○□○ ○ □ ○ □ ○ □
ド ラ ウ ン テ ン ダ ー リ ー ド
 Some say love, it is a river that drowns the tender reed.

□ □ □ ○○○□○ ○ □ ○ □ ○ □
レイザー リーズ ブリード
 Some say love, it is a razor that leaves your soul to bleed.

□ □ □ ○○○□○ ○ □ ○ □ ○ □
ハンガー エンドレス エイキング
 Some say love, it is a hunger, an endless aching need.

○ □ □ ○○○ □○ ○ ○ ○ □ ○ □
オウンリー スイード
 I say love, it is a flower, and you its only seed.

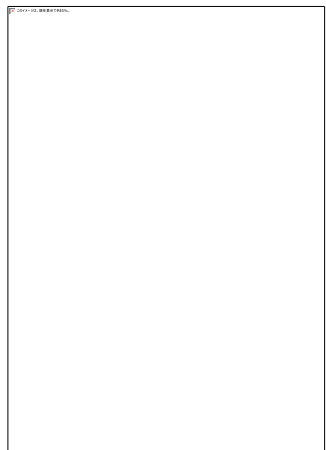


○ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □
アフレイド ブレイキング ネバー ラーンズ
 It's the heart, afraid of breaking, that never learns to dance.

○ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □
ウエイキング
 It's the dream, afraid of waking, that never takes a chance.

○ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □
ウオント テイクン スイーム
 It's the one who won't be taken who cannot seem to give

○ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □
ソウル ダイン
 And the soul, afraid of dyin', that never learns to live.



○ ○ □ ○ □ □ □ ○ ○ ○ ○ □ ○ □ □ □
ロンリー ロード
 When the night has been too lonely, and the road has been too long,

○ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □
スック オウンリー ラッキー ストロング
 And you think that love is only for the lucky and the strong,

□ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □
リメンバー ファ ビニース ビター
 Just remember in the winter far beneath the bitter snows,

□ ○ □ ○ ○ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □ ○ □
ライズ スイード サンズ ビカムズ
 Lies the seed, that with the sun's love, in the spring becomes the rose.

問題 次の質問文の動詞を○で囲みなさい。次に回答をまず、日本語で完成させ、日本語の述語に○、主語に_____を引いてから英語に直しなさい。

1. What did you eat ^{～に} for ^{夕食} dinner yesterday?

「私(は) _____ (を) [夕食 に] 食べた。」

2. With ^{～と一緒に} who did you eat dinner yesterday? Or did you eat it ^{ひとりで} alone?

「私(は) [_____ と一緒に] 夕食(を) 食べた。」

3. Who ^{調理した} cooked that dinner?

「 _____ (が) その夕食(を) 作った。」

4. Did that dinner ^{味がする} taste good?

「その夕食(は) _____ おいしい／まずい／まあまあの 味がした。」

5. Who ^{洗った} washed the ^皿 dishes ^{～後} after that? Did you ^{手伝う} help him or her?

「 _____ (が) 皿(を) 洗った。」

「私(は) 彼(女)(を) 手伝った／手伝わなかった」

(1) 日本文の述語を○で囲みましょう。

(2) 英語の語順は _____ (が) _____ (を) です。

(3) []は前置詞句になる場合、単語の順番が反対になります。

資料④

生徒の作品

Yesterday's Dinner

I ate soba for dinner yesterday. I ate it alone. My grandmother cooked that dinner. That dinner tasted very good. My grandmother washed the dishes. I didn't help her.

I ate anko mocha(rice cake with sweet beans jam) for dinner. I ate dinner with my whole family. My mother cooked the dinner. That dinner tasted delicious. My mother washed the dishes. I didn't help her.

I ate shougayaki(ginger pork) for dinner. I ate dinner with my family. My mother cooked that dinner. That dinner tasted good. My mother washed the dishes. I helped her.

I ate mushrooms and tuna rice for dinner. I had dinner with my mother. My mother cooked that dinner. That dinner tasted delicious. I washed the dishes. I helped her.

I ate curry and rice for dinner. I ate dinner with my family. My mother cooked the dinner. The dinner was delicious. (My) mother washed the dishes. I did not help her.

I ate gratin for dinner. I ate it alone. My mother cooked that dinner. That dinner was delicious. I washed the dishes.

※ ()や —a— は教師による訂正や加筆

資料⑤

問題 次の文をそれぞれの時制の文に直し、下段にはそれを 和訳 にしなさい。

climb – climbed – climbed – climbing

※ 月 日 提出。

	時 制	
基本時制	現在形	You (climb) Mt. Fuji.
	原形同形／－(e)s	あなたは富士山に登る。
	過去形	
	－ed／不規則変化	あなたは富士山に登った。
	未来形	
	will＋原形	あなたは富士山に登るでしょう。
進行形	現在進行形	
	am / are / is＋～ing	あなたは富士山に登っている。
	過去進行形	
	was / were＋～ing	あなたは富士山に登っていた。
	未来進行形	
	will be＋～ing	あなたは富士山に登っているでしょう。
完了形	現在完了	
	have / has＋過去分詞	あなたは富士山に登ったことがある。
	過去完了	
	had＋過去分詞	あなたは富士山に登ったことがあった。
	未来完了	
	will have＋過去分詞	あなたは富士山に登ったことがあるでしょう。
完了進行形	現在完了進行形	
	have / has＋been＋～ing	あなたは富士山に登り続けている。
	過去完了進行形	
	had been＋～ing	あなたは富士山に登り続けていた。
	未来完了進行形	
	will have been＋～ing	あなたは富士山に登り続けているでしょう。

問題 次の文をそれぞれの時制の文に直し、下段にはそれを 疑問文 にしなさい。

run – ran – run – running

※ 月 日 提出。

	時 制	
基本時制	現在形	You <u>run</u> in the park. (あなたは公園を走る。)
	原形同形 / -(e)s	
	過去形	
	-ed / 不規則変化	
	未来形 will + 原形	
進行形	現在進行形 am / are / is + ~ing	
	過去進行形 was / were + ~ing	
	未来進行形 will be + ~ing	
完了形	現在完了 have / has + 過去分詞	
	過去完了 had + 過去分詞	
	未来完了 will have + 過去分詞	
完了進行形	現在完了進行形 have / has + been + ~ing	
	過去完了進行形 had been + ~ing	
	未来完了進行形 will have been + ~ing	

問題 A Mother's Lullaby について次の質問に英語で答えなさい。

資料⑥

(1) Where **does** a big tree **stand**?

.....

(2) Who **was** a mother **singing** to under the tree?

.....

(3) When **did** a big bomb **fall** on the city of Hiroshima?

.....

(4) After the bomb, what **did** many people **lose**?

.....

(5) At the night, what **did** the tree **hear**?

.....

(6) Who **was** a young girl **singing** a lullaby to?

.....

(7) What **did** the boy **cry**?

.....

(8) What **did** the little girl **try** to be?

.....

(9) After the girl said, "Be a good boy," how **did** she **hold** the boy?

.....

(10) After the boy died, what **didn't** the girl **stop**?

.....

※ 疑問文への答え方の基本

- (1) 疑問文の主語と動詞を使う。疑問文では、「**助動詞** + 主語 + **動詞**」の形になっている。
- (2) 答えの文は「主語 + **助動詞** + **動詞** + 答えの中心部分」の形になる。
- (3) ただし、主語は代名詞を使う。また、助動詞の do / does / did は消え、does のときは動詞に -s が付き、did のときは動詞は過去形になる。

「英語と私」

次のことについて、学年ごとに書いてください。

1. 小学校の英語は何と言う先生が担当しましたか？
授業ではどんなことをしましたか？（ゲーム？歌？）
英語の授業は楽しかったですか。わかりやすかったですか。
2. 中学校3年間の英語は何という先生が担当しましたか？
英語の授業は、先生はどの程度英語で授業をしましたか？
また、皆さんはどの程度英語を使ってきましたか？
3年間の英語の授業は、1時間、どのように進みましたか？
家ではどんな勉強をしましたか？
テストはどのような問題でしたか？
中学の英語の授業は楽しかったですか。わかりやすかったですか。
3. ALT（外国人）の先生の名前は何と言いますか？ また、どんな授業をしましたか？
4. 塾で英語を勉強しましたか？（いつから、どこの、どんな内容で）
5. 上のような勉強をして、英語についてどのように思っていますか？
6. 高校の英語の授業にどのようなことを期待しますか？

Lesson 2 レポート課題

あなたの名前について次の要領で説明しなさい。裏まで書くように。

- (1) あなたの名字のルーツはどのようなものですか。家の人や本で調べましょう。
- (2) あなたの名前のそれぞれの文字はどんな意味がありますか。
- (3) あなたの名前は誰によってどのようにしてつけられたのですか。
- (4) あなたの名前には家族のどのような願いが込められているのですか。
- (5) ここまで書いてきて、あなたはあなたの名前にどのように思っていますか。
以上を、それぞれの項目に「小見出し」を自分で考えてつけて書きなさい。

授業の感想と試験勉強の振り返り

1. 第1回考査までに授業で行ったこと。
 - (1) Big Turnip（大きなカブ）で英語の基本 （セン） （マル） （セン） の学習
 - (2) There is a hole で英語の基本の前置詞句[]の意味の取り方の学習
 - (3) 英語の音読の基本・リズム読み
 - (4) 英文の視写（見て書き写す）

- (5) Mother' s Lullaby の感想を英語に直す。
 - (6) Mother' s Lullaby と Lesson 1 で英語の質問に対する答え方
 - (7) 段落構造とトピックセンテンス
 - (8) 英語の歌 The Rose
2. 4月から今までコミュニケーション英語Ⅰの授業をやってきて、中学校時代から自分ができるようになったことは何ですか。中学校時代の授業や自分の勉強と比較して書きなさい。
 3. 今回の試験勉強を振り返って、頑張ったところ、成果が出たところ、足りなかったところを書きなさい。

参考文献

- 寺島隆吉 「英語にとって学力とは何か」(三友社) 1986
- 寺島隆吉 「英語記号づけ入門」(三友社) 1991
- 寺島隆吉 「英語にとって音声とは何か」(あすなろ社) 2000
- 寺島隆吉 「英語にとって評価とは何か」(あすなろ社) 2002
- 寺島隆吉(監修) 山田昇司(編著)「寺島メソッド 英語アクティブ・ラーニング」(明石書店) 2016